

## 地域活性化とコミュニティビジネス

### CBすぎなみプラス、NPO法人設立へ

2006年度末、杉並区産業振興課（当時）主催のコミュニティビジネス起業セミナーが開催され、杉並中小企業診断士会味香理事長や私も受講生として参加、セミナー終了後、受講生を中心に勉強会“CBすぎなみ”を立ち上げ、会員の皆さんと地域活動も続けてきました。

昨年11月、セミナー講師のNPO法人コミュニティビジネスサポートセンター(CBS)永沢理事長のお薦めとご指導もあって、法人化を決意し、「CBすぎなみプラス」と命名し、設立総会を開きました。



2008年11月14日 設立総会

先ず、ここ数年間に政府（経産省）における、経済活性化施策としてコミュニティビジネスがどのように扱われてきたかをご説明します。

広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会が設立されたのが2003年。それまでも社会性、事業性を兼ね備えた団体が事業型NPO、コミュニティビジネス(CB)として活動していましたが、この辺りからコミュニティビジネスとして認知が高まり、紹介されるようになりました。

2006年、ムハマド・ユヌス氏がノーベル平和賞を受賞し、日本でもソーシャルビジネス(SB)が急激に脚光を浴びるようになりました。この影響があったのでしょうか、経済産業省のCB・SBへの取組が積極的になりました。

中小企業白書2008年版には、〈第3部 地域経済と中小企業の活性化 3. 中小企業のネットワーク形成〉の中で10ページに亘って商店街とCBの連携の動きを分析しています。

平成20年度(2008年度)には、“コミュニティビジネスの振興による地域活性化予算”として5.7億円つきました。同じ時期、経済産業省からソーシャルビジネス研究会の報告書が出ましたが、SBの現状として、市場規模2,400億円(推定)、3年後には2.2兆円と10倍の規模になると想定しています。

3年間に10倍の規模にするのですから、CBを担う人材の発掘・育成が必要で、1.6億円の予算措置をしており、地域でCBの起業や経営支援を担当する「地域中間支援機関の創出」に力を入れている様子が分かります。その流れに乗って、CBSのご支援を受けて「NPO法人CBすぎなみプラス(申請中)」が“地域中間支援機関”として誕生したと言う顛末です。

「NPO法人CBすぎなみプラス」は2009年4月に法人認証を受ける予定ですが、今後の事業活動について申し上げます。

“地域中間支援機関”は行政との繋がりが極めて強いことが通例です。杉並区にも「NPO支援センター」と言う公設民営の中間支援機関があります。支援の受益者から報酬をいただくことが難しい中間支援業務はビジネスとして成り立ちにくい面もあります。行政が何らかの支援、即ち、場所の提供、人件費負担、委託事業の発注などを行っています。CBすぎなみプラスは民設民営の中間支援機関で場所もお金も無いと言う状態から出発します。全て揃ってからやろうとすると何時になるか分かりません。

とりあえず杉並の地に中間支援機関の“旗を立てる”意気込みで始めました。

これまで、CB事業者のコンサルティングとして知的障害者通所施設のパン事業立ち上げコンサル、行政との協働としてパンフレット企画・制作、NPO 団体等との協働として区内公教育のPRフリーペーパー「なみすく」の広告営業・編集協力、区内主婦のネットワーク「アイデア生活隊」の勉強会支援、小学生の野外環境教育の後援・実施支援などをしてきました。

CBすぎなみプラスは現役で働いている方が多いので、運営が難しい点もありますが、NPO 団体の広報・マーケティング支援等に特化して、身の丈にあったCB活動ができることから一つずつ積み上げていこうと思っています。

(記：NPO杉並中小企業診断士会 亀澤大介)



小学生の野外環境教育



主婦のネットワーク「アイデア生活隊」

#### 〈CBとSB〉 ソーシャルビジネス研究会報告書から

CB と SB は共に①社会性（現在、解決が求められている社会的課題への取組）②事業性（①のミッションをビジネスの手法を通して、継続的に事業活動を進める）③革新性（新しい社会的商品・サービス、それら提供するための仕組み）を持ちながら、主な事業対象が国内地域(CB)か、国内外を問わないか(SB)と言う点に両者の違いを求めています。